



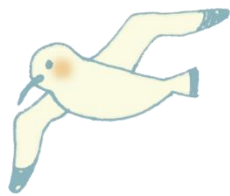
就労移行支援事業



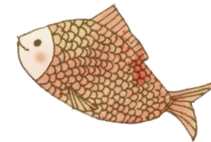
就労移行支援の訓練生3人（Nさん、Hさん、Mさん）が就職され、1人（Kさん）が一般就労を目指しチャレンジ実習に取り組まれています。それぞれに、訓練の中で意識して取り組んだこと、身についたこと、これからの目標を尋ねました。

Kさん
移行支援の訓練では、挨拶や返事がしっかりできるように頑張ってきました。実習をする中で、この挨拶と返事はとても大切だと感じています。仕事に集中して一生懸命取り組み一般就労できるように頑張りたいです。

Hさん
トライアル雇用に取り組む中で、初めの頃は体力的にきつい、指示が分からない時に遠慮して確認することが出来ないといった課題がありました。青空作業所のスタッフさんと振り返りをする中で、メモをとる、聞き取れなかった時は再度確認をするといった目標を立て取り組み改善していきました。これから正式な雇用になります。まだ仕事量が多いとあせってしまい、細かな確認が疎かになるなどの課題があるので、職場の先輩方にいろいろアドバイスを頂きながら成長していきたいと思います。



移行支援事業を卒業された方 チャレンジ実習に挑戦してみえる方からのコメント



Nさん
移行支援では落ち着いて作業することを意識していました。就職してまだ数日しかたっていないので大変なこともあります。メモを取りながら仕事に取り組んでいます。まずは仕事に慣れて、スムーズにこなしていき、出来ることを増やしていきたいです。

Mさん
移行支援の訓練では、コミュニケーションを意識してきました。最初は自分から話しかけるのも苦手でしたが、2～3カ月経った頃から少しずつ周りの人と話をしたり、施設外の仕事先でも挨拶や報告が自分から出来るようになりました。今は早く仕事に慣れることと、コミュニケーションスキルをもっと身につけたいです。

農福連携にも取り組んでいます

昨年からは平野農園様に施設外訓練のご協力をいただいています。これまでは半日の仕事でしたが今年度から午前・午後と受け入れていただいています。新型コロナウイルスの影響から施設外訓練先がしばらくお休みになる中、貴重な訓練の場をご提供いただきありがとうございます。



仕事の内容は、ほうれん草の梱包作業です。



就労継続支援B型事業



本年3月から青空作業所で働いているお二人が、自主生産品の訪問販売と近況報告の為、母校である飛騨特別支援学校へ伺いました。



訪問した二人の姿をみて先生方は笑顔で話しかけてくださいました。
久しぶりの母校に緊張気味でした(笑)



母校を訪問した感想を聞きました！

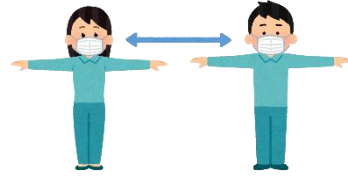
Oさん
販売に行って大きな声であいさつが出来ました。おすすめ商品が言えなくて悔しかったです。
初めて会った先生にもお話ができました。次回はおすすめ商品を伝えられるようにがんばりたいです。施設外訓練に行きたくて頑張っている話が出来て良かったです。

Tさん
少し緊張しました。久しぶりに先生達に会えてうれしかったです。釣り銭計算がうまく出来なくて不安でした。
先生方から「仕事は頑張ってますか？成長したね！」と声をかけてもらいました。色々なお話が出来て良かったです。



新型コロナウイルス感染予防対策

作業所に到着した利用者の方は、毎朝自宅で検温した記録表をスタッフに提出し、手洗いとうがいを行っています。忙しい朝ではありますが、これを徹底することで利用者の感染予防意識が高まっています。



① 作業所到着！スタッフへ体温チェック表を提出
その日の体調の確認を行います。



② 手洗い・うがい
手洗いは30秒以上時間をかけ丁寧に、うがいも口をゆすいで行います。



青空通信

NPO 法人 ウェルコミュニティ飛騨 青空作業所
高山市山口町 1297-1 0577-35-1559
<https://www.welcom-aozora.com/>
令和2年 7月 10日発行 第45号



ご挨拶

理事長 柏木 真司

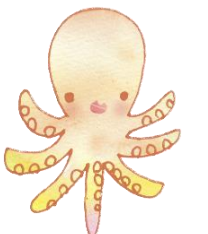
日頃より、ウェルコミュニティ飛騨 青空作業所の活動に対し、ご理解とご支援を賜り深く感謝申し上げます。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大対策から始まり、過去に経験の無い対応を求められ、緊張の日々を送って参りました。緊急事態宣言も解除され、徐々に以前の生活に戻りつつありますが、引き続き気を緩めることなく感染防止に取り組んで参ります。

さて、当法人にて平成30年11月より取り組んでいる「就労定着支援」の事業は、令和元年11月のデータによると全国で1,162事業所あるようです。就労移行支援事業所が3,132事業所(令和元年11月時点)であることを考えるととても少ないように感じます。事業施行前に厚生労働省の担当官から「就労移行支援事業所は、就労定着支援を実施することを前提と考えている」といった話を聞いたことがあります。

新型コロナウイルスは、障がい者雇用にも影響を及ぼしています。青空作業所から就職した人で解雇された方はいませんが、自宅待機されている方は相当数みえます。この先不透明な状況下、大きな不安を感じています。こうした時こそ就労定着支援の果たす役割は大きいと考えています。

国からは「新型コロナウイルス感染症への対応に伴う就労系障害福祉サービスにおける柔軟な取り扱い」が示されています。こうした情報をしっかり把握したうえで私たち事業者も柔軟な対応をとり、障がいのある方の支援を行っていく必要があると思います。



防災訓練を行いました

密になるのを防ぐために、継続支援B型、移行支援の両事業ごとに日程を組んで行いました。

今回は、座学の時間を多く取り、高山市が策定しているハザードマップを使い、自分が住んでいる地域の危険箇所や一時避難所、指定避難所を確認しました。

災害時の避難行動については

- 警戒レベル3や4が出たら危険な場所から避難しましょう
- 避難とは「難」を「避」けること。安全な場所にいる人は避難所に行く必要はありません
- 避難先は、一時避難所・指定避難所ではありません
安全な親戚・知人宅に避難することも考えてみましょう

といった参考基準を確認し、日ごろから準備をしておくことの大切さを学びました。

